



発行日 / 2016年(平成28年)11月15日 発行 / 羽生市議会 編集 / 議会だより編集委員会



秋風に揺れるコスモス

10月9日(日)
コスモスフェスティバルが
開催されました。

会議のあらまし

(9月定例市議会)

- ・9月1日(本会議第1日)
開会の後、会期について議会運営委員長から報告があり、9月28日までの28日間と決定。諸般の報告の後、請願を所管の常任委員会に付託。
続いて議案第53号が上程され、提案説明を受け、質疑、討論、採決を行う。
続いて議案第45号から同第52号まで及び同第54号から同第60号までの15議案が上程され、提案説明を受け散会。
- ・9月2日(7日)
議案調査等のため休会
- ・9月8日(本会議第2日)
議案第45号から同第52号まで及び同第54号から同第60号までの15議案に対する質疑の後、議案を各常任委員会に付託し散会
- ・9月9日(本会議第3日)
市政に対する一般質問(4人)を行い散会
- ・9月10日、11日
休日のため休会
- ・9月12日(本会議第4日)
市政に対する一般質問(4人)を行い散会
- ・9月13日(本会議第5日)
市政に対する一般質問(4人)を行い散会
- ・9月14日(16日)
付託議案等の審査のため、各常任委員会を開催
- ・9月17日(19日)
休日のため休会
- ・9月20日
付託議案等の審査のため、各常任委員会を開催
- ・9月21日(27日)
各常任委員会事務整理等のため休会
- ・9月28日(本会議第6日)
付託議案等について各常任委員長から審査報告があり、質疑、討論、採決を行う。
続いて、市長から追加議案4件が上程され、採決を行う。
続いて、副議長の辞職に伴う改選等を行う。
最後に、閉会中の特定事件の委員会付託を行い閉会

市政に 対する

一般質問

そこが… 聞きたい



一般質問は、提出議案以外で市政全般にわたる事務の執行状況や将来に向かっての方針などを執行部に問うものです。今定期例会では、9月9日、12日、13日の3日間にわたり12人の議員によって行われました。

主な質問と答弁の要旨は次のとおりです。

子育て支援について

柳沢 暁 議員

・質問 人口減少と少子高齢化が社会問題となっている。合計特殊出生率は2014年全国平均1・42、羽生市1・11と全国に比べて低く危機感を持たざるを得ない。羽生市まち・ひと・しごと創生総合戦略には合計特殊出生率を2020年に1.5にする。また、児童館開設の目標設定をしていることから、次の点について伺う。

- ① 出生率1.5に向けた施策と2016年～2019年の合計特殊出生率の目標設定
- ② 児童館開設に向けてのスケジュール

・答弁 (企画財務部長)

① 子育てをして行く上で安定した雇用の場が近隣にあるこ

とが、重要な要素であると考え、基本目標の一つには仕事をづくり、安心して働けることとしている。また、今後、妊活推進事業や早期赴任検査治療費助成などのウェルカムベイビープロジェクトや子育て包括支援センターの開設など、県と連携して推進して行きたいと考えている。



また、出生率目標設定については、羽生市人口ビジョンの中で、目指すべき将来の人口を設定しているが、合計特殊出生率を2015年に1・11、2020年に1・50、2025年に1・80と条件設定している。これは事前に内閣府から全国の自治体に配布されたワークシートに準じており、設定期間が2060年までの長期間であるため、1年ごとの目標設定ではなく、5年区切りとなっているものである。

② 児童館については、子育てに関するニーズが多様化する中、子どもの健やかな成長を育む居場所づくりとして大変重要であると考えている。羽生市まち・ひと・しごと創生総合戦略に、児童館の設置がうたわれており、今後は、これに基づいた児童館の開設、または児童館と同様の機能を備えた複合的な施設の整備など、事業スケジュールも含めて検討して行きたいと考えている。

その他の質問

・子どもの貧困対策について

副議長が改選

9月28日に根岸義男副議長が辞職したことにより、改選が行われ、中島直樹議員が当選いたしました。



副議長
中島 直樹

都市民生委員会に おいて委員長が改選

委員長 島村 勉 議員

羽生市議会の 政務活動費

政務活動費は議員の調査研究その他の活動に資するため必要な経費の一部を会派または議員に交付するものです。

羽生市議会では、月額1万2千円、年合計14万4千円を交付しています。

コミュニティスクールについて

齊藤 隆 議員

・質問 次の点を伺う。

- ①川俣小学校コミュニティスクールを導入し、地域と共にある学校モデルを推進するとしているが、学校運営協議会設置のプロセス及び概要について
- ②学校運営協議会が健全に機能するための留意点について

- ③地域・家庭及び小学校の教職員へのコミュニティスクールの啓発活動について
 - ④今後のコミュニティスクールの導入計画について
- ・答弁（学校教育部長）
 ※学校運営協議会をコミュニティスクール推進委員会と読替える。

- ①地域として学校支援体制が既に確立されている川俣小学校を羽生市版コミュニティスクール第1号のモデル校として提案、打診し、了解を得たものである。その準備として、学校が地域住民への説明と委員選定を行い、教育委員会はコミュニティスクール推進委員会設置校として指定するものである。推進委員会は各学期1回以上開催し、地域と共有する学校づくりに向けた取り組みを進めていくものである。
- ②学校評議員会などの既存の



モデル校の川俣小学校

組織の長所を生かしつつ、機能コミュニティスクール推進委員会に発展することで、学校や地域の負担とならない

ようにすることなどがあげられる。
 ③学校だより、公民館前の掲示板、横断幕及びのぼり等で啓発活動を行なっている。
 ④モデル校での成果と課題を検証し、来年度は市内の約半分の小学校でコミュニティスクール推進委員会が設置できるように働きかけて行く予定である。

その他の質問

・一般廃棄物会計基準の導入について

中学校運動部の活動について

野中一城 議員

・質問 中学校運動部の活動

では、休日も練習や試合が組まれるケースが多く、それによる睡眠不足や学習時間の不足、家族とのコミュニケーションの低下などをもたらしているものと思われる。そこで、運動部の活動に休養日を設けるべきとの考えから、次の点

を伺う。

- ①中学校の部活動の実態について
- ②運動能力向上と適切な休養との調和を図るための運動部の在り方について
- ③運動部の指導者として地域人材の活用について

・答弁（学校教育部長）

- ①運動部は、西中学校が14部、南中学校が12部、東中学校が12部の合計で38部ある。加入率は、西中学校が79・2%、南中学校が74・5%、東中学



部活動の様子

校が70・8%である。38部中20部が週1日以上休養日を設けている。また、活動時間としては、1日あたり平均1・6時間となっている。

②運動能力の向上のためには、毎日の練習が重要であるが、身体的な成長が著しい中学生の発育、発達に適時性を軽視した激しい練習を続けるとスポーツ障害を招く恐れがある。埼玉県教育委員会では、週に1日から2日休養を設けることが身体的、精神的疲労の回復に有効であるとしてい

ることからも、運動能力の向上と休養のバランスに配慮しながら、極端な激しい練習計画とならないよう指導して行きたいと考えている。

③地域人材を活用している運動部は、38部中11部である。地域人材を活用することで、教員の負担軽減、子どもたちへのより専門性の高い指導などのメリットがある一方、地域人材の人間性や指導力を十分に発揮し、子どもたちに適切な指導ができる方を採用することが重要と考えている。

全世代に対応した地域包括ケアシステムについて

峯寄 貴生 議員

- ・質問 全世代対応の地域包括支援は、今後の羽生市に必要となってくる。よって、次の点を伺う。
 - ①地域包括ケアシステムの取り組み状況について
 - ②全世代に対応した地域包括ケアシステムの拠点を設置することについて
 - ③ひとり親世帯の子どもなどが集う「子ども食堂」、さらには独居高齢者や子どもを交えた「寄合食堂」の実現性について
 - ④地域包括ケアシステムの今後の見解について
- ・答弁 (市民福祉部長)
 - ①羽生市における現在の地域

包括ケアシステムは他市町村と同様、高齢者を対象としたケアシステムとなっている。しかし、羽生市の福祉部門は庁舎1階に集中しており、他の相談を受けた場合でも担当者同士が連携し包括的なケアを行なっている。

②国・県の動向を見据えながら、人材の育成を含め、新しい地域包括ケアシステムの構築に向けた調査研究をして行きたいと考えている。

③今年8月に市社会福祉協議会が子ども食堂を川俣公民館



で開催し、子どもは無料、大人は300円で夕食を提供している。寄合食堂と同様の事業として、市社会福祉協議会による羽生サロンがあり、生活困

窮者の居場所づくりとして、毎月1回市内公民館で開催している。今後は、世代間交流に加え、地域住民も含めて誰もが参加できる交流の場づくりを目指し、調査研究を進めて行きたいと考えている。

④当支援体制は始まったばかりであり、国・県の動向を見据えながら、調査研究を進めて行きたいと考えている。

その他の質問

・農業インフラの長寿命化について

AEDの整備について

中島 直樹 議員

- ・質問 全国では年間2万人の人が突然の心停止によって亡くなっている。突然の心停止にはAEDの活用が有効であることから、平成16年以降、各所への設置が急速に進んできた。発生リスクを考えると屋外体育施設にも設置が必要と考えるが、実際には設置さ

れていないことを市はどのように考えているのか、見解を伺う。

小中学校は夜間や休日にもスポーツ少年団やサークルに利用されている。しかしながら、AEDは校舎内に設置されていることから実際には使

えるが、見解を伺う。

・答弁 (消防長)

昨年6月に中央公園内でAEDの使用により社会復帰し



設置場所を知らせる標示

た奏効事例があり、これを踏まえて、今年7月から中央公園野球場、陸上競技場及び道の駅に増設設置をしたものである。その他の屋外体育施設では、盗難やいたずらなど、防犯上の問題があり、また、温度等の保管条件があるため、設置は難しい状況である。また、市内全小中学校にAEDを設置しており、設置場所は、各学校の意向により決められ、緊急時に直ちに教職員が現場に持って行けるように職員室出入口付近に設置し

ており、羽生南小学校のみ体育館内に設置している状況である。今後は、いざという時のために各スポーツ少年団の指導者や保護者、学校施設の夜間開放利用者等にもAEDの取り扱いを含めた救命講習をはじめ、誰でも、いつでも使用できる場所への変更等を教育委員会と慎重に協議して行きたいと考えている。

その他の質問

・初めての18歳選挙権の状況について

南中学校通学路(市道0113号線)の整備計画について

阿部 義治 議員

・質問 本通学路は、最近交通量が増加し、生徒の通学や下校の際に事故にあわないか心配をしている。

本年度、道路整備に向けての測量を実施する予算が計上されているが、これからの整備計画について次の点を伺う。

- ① 測量の目的、内容、進め方
- ② 道路整備の見通しと、計画の考え方について
- ③ 自転車や歩行者の安全対策として、埼玉県が進めている「自転車すいすい55プラン」の導入について
- ④ 道路拡幅整備に関する近

隣用地の確認のため、用地測量の予算を計上したものである。今年度実施する測量内容は、昨年度実施した現況測量の結果をもとに、道路に関する用地を確認することである。現在、稲作が終わる10月に測量業務を発注できるよう準備を進めているところである。

②道路拡幅に伴い、車道と分離した自転車・歩行者道を設置して行く。関係機関との協議が整った段階で設計、用地買収、工事の順に進めて行く予定である。



拡幅予定の市道0113号線

③自転車すいすい55プランでは、自転車が車道の路肩を

走行するよう路肩部に青いラインを整備したものと自転車と歩行者の通行位置を明確に分離するよう白線を設置したものがある。県では現時点で市町村に対する支援策は検討していないとのことではあるが、市としては、白線あるいは青いラインについて、公安委員会の意見を聞きながら設置して行きたいと考えている。

その他の質問

・国民健康保険事業の運営について

羽生総合病院への支援について

本田 裕 議員

・質問 高度医療の提供と救急患者の受け入れを迅速に行う、羽生総合病院新病院への支援について伺う。

- ① 羽生市は、新病院支援基金をいくら積み立てたのか。
- ② 新病院建設用地取得には、いくらかかったのか。
- ③ 土地代の支援に対して羽生

市は、いくら支援補助するのか。

- ④ 支援金を羽生総合病院に渡すのは、いつなのか。
- ⑤ 現病院用地の賃借5年延長が、開院前に切れる見通しとなるが、再延長の期間について
- ・答弁 (まちづくり部長)
- ① 新病院の土地相当額を金銭により支援するために、

埼玉医療生活協同組合羽生総合病院の新病院建設支援



羽生総合病院新病院建設地

基金条例を制定し、三年間にわたり1億円ずつ積み立てている。利息を含めて、平成28年3月末時点で、3億68万4,779円となっている。

- ② 用地は全て病院が買収を行なっている。市が把握している取得額は、3億466万1,600円である。
- ③ 用地取得額や基金積立額を勘案し、3億円を限度に支援していく考えである。
- ④ 市民が望む高度医療の提供や救急患者の受け入れな

などが確保された、新病院開院後を考えている。

⑤ 新病院の建設中に契約期限を迎えるため、賃借期限の再延長について検討をすすめている。再延長の期間については、新病院の開院の時期と、現病院の建物取り壊しに要する期間を勘案し、必要な期間を延長する方向で調整していく。

その他の質問

・羽生市補助金等交付基準について

2020年東京五輪における羽生市の海外選手団の事前誘致について

永沼 正人 議員

- ・質問 次の点について伺う。
- ①誘致活動に関する市の見解について
- ②各自治体の誘致活動の現状をどの程度把握しているかについて
- ③キャンプ活用可能施設の把握や施設整備計画の加速化など、誘致計画を策定すべきと

- 考えるが、その見解について
- ④2020年東京オリンピック・パラリンピック開催前に、2019年ラグビーワールドカップが熊谷市で開催されるが、本市の対応予定について
- ・答弁 (生涯学習部長)
- ①海外選手団のキャンプ地誘致はトップアスリートとの交

流により、市民に夢と希望を与え、さらには地域の活性化などが期待されることから、プロジェクトチームを設置し、キャンプ地誘致や大会を盛り上げるための取り組みを行っている。

今まで交流のある、フィリピン及びベルギーの選手団及び応援団を迎えることができればと考えている。

②県内では、既に2つの自治体が、誘致についての具体的な調整が進められている。今後、各自治体において誘致に

向けた取り組みが本格化していくので、今後とも国・県の動向に注視していく。



③現時点では、整備計画を策定する状態に至ってはいませんが、総合的に検討を進める。

④羽生市にはラグビー専用グラウンドがなく、キャンプ地として誘致するには厳しい状況にある。

しかし、市内宿泊施設の受け入れなど対応可能な部分があれば、近隣自治体と連携していきたい。

その他の質問
「学校給食応援団」制度について

少子高齢化への

対応について

丑久保 恒行 議員

- ・質問 次の点について伺う。
- ①羽生市の高齢者数の今後の見通し及び羽生版社会保障施策をどのように進めていくのかについて
- ②独居高齢者を地域で見守りを行うことが不可欠だと考えるが、その見守りの現状について。また、災害等、緊急時

- の安否確認や避難支援の課題への対応について
- ③少子高齢化に伴う人口減少対策について
- ・答弁 (①②市民福祉部長 ③企画財務部長)
- ①羽生市の高齢化率は27.1%である。2025年には、31%を超えることが予想され

ている。今後は、子育て家庭、高齢者、障がい者、貧困家庭等、包括的な支援が必要にな



つていくと思われるので、羽生市に合った地域包括システムづくりができるよう努力したい。

②民生委員による日常的な見回りの他、在宅介護支援センター及び包括支援センターの職員が戸別訪問を行っている。

また、災害発生などの緊急時に、災害弱者を対象とした避難行動要支援者名簿を作成し、民生委員や地域防災組織などの地域の支え合いにより、

安心して速やかに避難等を行えるように対応している。

③羽生市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、企業誘致を推進する事業や起業と人材育成を支援する事業を行っている。また、結婚・出産・子育ての希望をかなえるために、カップリングパーティーを開催し、出会いの場を創出している。その他、内水害対策や岩瀬土地区画整理事業の推進を行っている。

その他の質問
奨学金・貸付金制度と貧困家庭救済について

市立保育所の 今後の方向性について

島村 勉 議員

・質問 保育園に入れない待機児童が社会問題となつてい
るなか、羽生市の保育所は5
か所のうち、4か所が定員割
れをしている。次の点につい
て伺う。

①羽生市立の保育所と民間の
保育園では、保育環境に著し
い格差がある。特色ある保育

所にしなければ、私立との差
が拡がると思うが、その方策
について

②障がい児保育の状況と障が
い児保育をどのように捉えて
いるのかについて

③正職員と臨時職員の保育士
では収入や勤務条件に大きな
違いがあるが、現在の状況に

ついて

・答弁 (市民福祉部長)

①市立保育所の施設環境は民
間保育園と比較して劣るかも
しれないが、毎日の給食や児
童一人一人に対する手厚い保
育によって、市立保育所は、
民間保育園に勝るとも劣らな
いと認識している。

施設環境面だけでなく保育
という観点から見れば、著しい
格差があるとは思っていない。

②各保育所では、それぞれ数
名程度の障がい児保育を実施
している。障がい児の受け入



市立第六保育所

れ前に、保護者と保育士との
間で、保育の方法を検討し、

必要に応じ医療機関や療育機
関の意見を参考にして、障が
い児保育を実施している。

③正職員と臨時職員との賃金
格差を少なくするため、今年
度は昨年度より賃金を増額し
た。また、子育て中の臨時保
育士等にも配慮し、希望者に
は短時間勤務を行えるなど、
処遇改善に努めている。

その他の質問

・市内水害対策について
・羽生市中学生海外派遣事業
について

ムジナモ自生地の PR事業について

奥沢 和明 議員

・質問 次の点について伺う。

①国の天然記念物である宝蔵
寺沼ムジナモ自生地の現地見
学会の様子が、テレビやラジ
オで放送された。

そこで、宝蔵寺沼ムジナモ
自生地の現状と現地見学会の
内容、今後の自生地の方針に
ついて

②宝蔵寺沼ムジナモ自生地を
より多くの市民に知ってもら
い、関心を持ってもらうため
に、観光協会等とタイアップ
して、型にはまらないPRを
していくべきだと考えるが、
見解を伺う。

・答弁 (生涯学習部長)

①宝蔵寺沼ムジナモ自生地の



ムジナモ自生地見学会

ムジナモは7月末日現在で、
昨年の約13倍の12万7千株と
なっている。

宝蔵寺沼ムジナモ自生地の
天然記念物指定50周年記念事
業として、自生地見学会を実
施した。市外からも多くの参
加者があり追加の見学会も開
催された。

見学会は、農村センターで
ムジナモに関するDVDを鑑
賞したのち、自生地へ移動し
て現地見学会を実施した。幸
運にも幻の花と言われるムジ
ナモの白い花も鑑賞すること
ができた。そのときの様子は、
NHKで放送されたほか、新
聞にも掲載された。

その他の質問

・農業後継者対策について
・地域史発掘事業について

自衛官募集に関する 羽生市の取り組みについて

保泉 和正 議員

・質問 自衛隊は、日本の平和と独立を守り、国の安全を保つとともに、東日本大震災や昨年9月の関東・東北豪雨、本年4月の熊本地震などの災害における人命救助や復興支援活動において、なくてはならない存在である。自衛官募集に関する羽生市の取り組みについて伺う。

誌やホームページへの掲載、市役所庁舎内へのポスターの掲示などを行なっている。

②新たな取組として、市役所庁舎以外の公共施設へのポスター掲示、ホームページ内容の充実等さらなるPRに努めていく。

③日本の防衛、国際貢献、世界への復興支援、災害派遣の重要性を教えると同時に、海外派遣に対する慎重論があるなど、子ども達が多面的、多角的な考え方や見方が養えるよう指導していく。

①自衛官募集に関する今までの羽生市の取組状況について
②自衛官募集に関して市としての今後の取組について
③人命救助や災害支援活動、平和維持活動などを行っている自衛隊を学校教育の場で正しく伝えていくことへの見解について
④自衛官募集及び自衛隊の必要性・重要性に関する市長の見解について

・答弁(①②③総務部長④市長)
①自衛官募集は、自衛隊法や地方自治法に規定された法定受託事務となっている。広報



④国民の生命と財産を守るという非常に重要な任務を担う人材を確保するために必要なものであると考える。羽生市から毎年新規自衛官が入隊す

るなど、国防や災害における救助活動、国際貢献活動に従事することを希望する若者がいることを大変頼もしく思っている。

議案に対する質疑

「議案に対する質疑」は、議会に上程された議案について、質疑を行うことであり、賛否の意思決定をするため議案の提出者に対し説明や考えを求めるものです。今期定例会では、次の議員によって行われました。

斉藤 隆 議員

○議案第45号 平成27年度羽生市一般会計歳入歳出決算

・質疑 子ども医療費制度の現物給付による受診形態の分析及び、利用者への最大の利益提供と適切な受診への啓発についての見解を伺う。

・答弁(市民福祉部長)

子ども医療費制度の平成27年度予算は、同制度の他市町村の償還払いから現物給付への移行に伴う医療費の伸び率を参考に前年度比3割増の1億7,000万円を見込んだが、決算額は、1億6,260万円、実質的には19・

中島直樹 議員

○議案第45号 平成27年度羽生市一般会計歳入歳出決算

・質疑 入学準備貸付事業について、入学準備貸付金200万円が不用額となっているが、貸付事業として利用しづらいということはないのか伺いたい。

・答弁(学校教育部長)

入学準備金貸付事業については、高等学校等への進学で一名40万円、大学等への進学で二名80万円の予算で募集をしたが、申請者はいなかった。そのため、大学等への進学に対する貸付については、償還開始の時期を見直す必要があると考えている。

現在、償還開始に6カ月の据置期間を設けているが、猶予期間を卒業まで延長すれば、本人が卒業後就職してから償還することもでき、借りやすくなるのではないかと考えている。

その他の質疑

・議案第47号、第50号、第52号、第54号、第55号、第56号、第60号
また、高校等への進学に対する貸付については、高校の授業料無償化などの影響もあり申請が少ない状況である

が、一名分の枠を設けていることは必要であると考えている。

今後も、制度の周知について一層充実を図っていききたい。

・議案58号
その他の質疑

野中 一城 議員

○議案第45号 平成27年度羽生市一般会計歳入歳出決算
・質疑 環境配慮型機器導入補助金について次の点を伺う。
①予算執行残額が生じた理由について

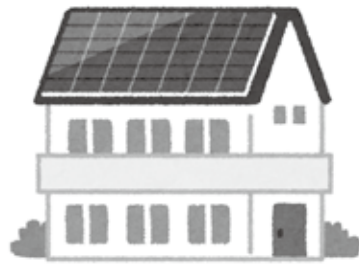
②太陽光発電による温室効果ガス抑制の効果について
③当事業の地球温暖化対策の位置づけについて

・答弁 (経済環境部長)

①補助金の申請件数が、当初見込み125件に対し105件と予定を下回ったためである。この要因としては、申請件数のうち新築に係る件数は、過去5年間の平均件数とほぼ同数であるが、既存住宅の申請件数が69件と過去の平均件数82件に比較し大きく減少したこと、太陽光発電によ

る売電単価が低下していることなどの影響が考えられる。
②二酸化炭素換算値で265・28トンの削減効果である。

③総合振興計画や環境基本計画に位置づけられており、主な対策は、クールビズなどの身近な取り組みと省エネルギー、新エネルギーを推進する取り組みの二つである。事業は、省エネルギー、新エネルギーの推進という観点から温室効果ガス排出量削減の重要な取り組みとして位置づけられている。



柳沢 暁 議員

○議案第45号 平成27年度羽生市一般会計歳入歳出決算

・質疑 南羽生地内の交通安全全対策として実施した、指定

区域を速度30キロに規制するゾーン30の効果検証について伺いたい。

・答弁 (まちづくり部長)

南羽生地地区は、平成27年12月10日からゾーン30を開始した。この効果検証については、実施後1年経過していないため、羽生警察署の見解によると現段階では、正式な検証はできないとのことである。暫定的な状況報告になるが、県警ホームページから、当エリアの今年1月1日から7月までの交通事故発生件数と前年同時期の事故発生件数を比較すると、前年は、軽症5件、重症1件、死亡1件の計7件に対し、今年度は、軽症3件、重症1件の計4件であり、ゾーン30実施後は、死亡事故は発生しておらず、事故件数も3件減少している。正式な効果検証については、今後現場の状況を確認しながら羽生警察署と実施していききたい。

島村 勉 議員

○議案第45号 平成27年度羽生市一般会計歳入歳出決算

・質疑 次の点について伺う。

①不用額が生じる要因と予算執行上の問題点について

②実質収支額が増減する要因また、減少することによる予算に及ぼす影響について

・答弁 (企画財務部長)

①不用額は、歳出において支出に用いなかった額であり、予算上、不要であった金額ではない。不用額が生じる要因は、科目により異なるが、予算執行上の残額や状況の変化等により予算執行を見合わせることにによるものである。問題点については、予算の適正執行により不用額が生じるものと考えているが、その額が多額の場合は理由を精査し、翌年度以降の予算編成に活かしていききたい。

②実質収支額は、収入総額から支出総額と翌年度への繰越額を差し引いた金額であり、増減の要因としては、歳入歳出差引額に起因するものであり、また、歳出予算の不用額も影響している。予算への影響は、実質収支額が減少することは、翌年度への繰越金が減少することを意味し、後年度の予算編成が厳しいものになる。

本田 裕 議員

○議案第54号 平成28年度羽生市一般会計補正予算

・質疑 創業支援事業について次の点を伺う。

①創業支援事業補助金補正予算900万円の理由について
②補助金交付に際し、担保相当となる確約事項について

・答弁 (経済環境部長)

①この事業は、創業支援計画に基づき、市内での年間創業者数を3件、平成27年から5年間で15件の創業の実現を目指すものであるが、このたびの補正予算は、市内での創業を目指す方が当初の予想を上回るため、創業目標を前倒して達成するための経費である。補助対象者は、年度内の実現性を勘案し9名、補助予定額は、1件当たり上限額100万円とし合計900万円の増額補正となる。

②本事業の実施に際しては、補助金の目的達成のため、交付決定・交付・事業開始後などそれぞれの段階で審査や、確認、相談指導を行うなど、創業者が事業を末永く継続で



マッスルスーツの使用事例

きるよう、創業検討段階から創業後まで一貫した支援を行う予定である。
また、この事業の成果が発揮できるよう創業者の経営努力も求めていきたい。

永沼正人 議員

○議案第54号 平成28年度羽生市一般会計補正予算

・質疑 社会福祉施設整備助成事業について、全額国庫補助となっているが、この制度の概要及び公的介護施設等整備事業補助金の使途、内容について

・答弁 (市民福祉部長)

この制度は、高齢者が住み慣れた地域での生活が維持できるよう、介護施設等におい

て先進的整備を行う法人に対し、施設等の整備を促進し、高齢者の福祉の増進を図るための国の補助制度である。

公的介護施設等整備事業補助金は、2種類あり、一つは、介護従事者の労力の負担軽減を目的とした、マッスルスーツの導入経費補助であり、圧縮空気を付いた人工筋肉により、介護従事者が背中に装着することで介護時の労力を軽減するもので、あずみ苑羽生が2台導入し補助の対象となっている。二つめは、スプリンクラーや消火ポンプ設備の整備補助である。消防法の改正により、宿泊を伴う施設は、スプリンクラーの設置が義務付けられたため、お泊りデイサービスセンター彩優・羽生南館が対象である。

あいぞめ 監染議会を開催

市議会では、9月定例会を「監染議会」と命名し、8年目を迎えました。本会議に出席する議員と職員が初日及び最終日に「監染シャツ」を着用し、審議を行いました。



教育委員会委員の任命に同意

教育委員会委員のうち岩本一盛委員の任期が9月30日をもって満了となるため、高瀬賢一氏を新たに任命したいとして、市長から同意を求められました。

市議会では、投票の結果、適任と認め同意いたしました。

監査委員の選任に同意

栗原富雄監査委員の任期が9月30日をもって満了となるため、渡邊義弘氏を新たに選任したいとして、市長から同意を求められました。

市議会では、投票の結果、適任と認め同意いたしました。

固定資産評価審査委員会委員の選任に同意

固定資産評価審査委員会委員のうち、若林年委員の任期が10月4日をもって満了となるため、引き続き同氏を選任したいとして、市長から同意を求められました。

市議会では、同氏を適任と認め同意いたしました。

人権擁護委員候補者の推薦に同意

人権擁護委員の曽根静江氏の任期が12月31日をもって満了となるため、新たに山岸和美氏を推薦したいとして、市長から意見を求められました。

市議会では、同氏を適任と認め同意いたしました。

請願を趣旨採択

今期定例会に若者も高齢者も安心できる年金制度の実現を求める請願が提出され、都市民生委員会において審査が行われました。

委員会審査において、現在の日本の経済状況を見たときに、請願の要求事項を実現す

るための財源確保が難しいことから、趣旨採択すべきものとの結論に至りました。
最終日に委員長報告を行い、採決の結果、趣旨採択と決しました。

ボートレース戸田

県内15市で構成する都市競艇組合の収益金の一部は、毎年構成各市に交付され、市民の皆様の暮らしに役立っています。

開催日

月	火	水	木	金	土	日
				11月18日	19	20
				第6回スマホマクル杯		
21	22	23	24	25	26	27
マクル杯				2	3	4
			12月1日	e-SHINBUN杯		
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
				ボートピア岡部カップ開設15周年記念		
19	20	21	22	23	24	25
岡部カップ						

※埼玉県都市競艇組合主催のみ掲載しております。

9月定例会 審議案件とその結果

●議決結果の公表について

議会改革の一環として、「市民に明確な意思表示をする」という目的のもと、議員自らの考えを分かりやすく市民に示す手段のひとつとして、各議員の表決結果を掲載しています。

薫風会…薫風 拓政会…拓政 公明党…公明 日本共産党…共産 無党派…無派 【賛成：○ 反対：× 退席：退 欠席：欠】

Table with columns for 議案番号, 議案名, and 審議結果, with sub-columns for party affiliations like 薫風, 拓政, 公明, etc.

市長提出議案

Main table listing 43 items (第45号 to 第63号) and 諮問第1号, with columns for decision status (認定, 承認, 原案可決, 同意) and party votes.

※議長は採決に加わりません。
※注1 投票結果 賛成9票：反対4票
※注2 投票結果 賛成13票：反対0票

※12月定例会市議会の日程は、11月24日(木)に開催予定の議会運営委員会が正式に決まりますので、変更になる場合もあります。

Calendar table showing dates from 12/15 to 11/29, days of the week, and meeting times/content.

12月定例会市議会は、左記のような日程で予定されています。
「羽生市空家等の適切な管理に関する条例」が賛成全員で可決されました。この条例は、空家等について危険等を回避するため、緊急措置及び利活用の推進について規定されており、来年4月から施行されます。

空家条例を可決 (Large vertical text box with decorative border)

各常任委員会の経過

総務文教 委員会

委員会上に付託された案件は、議案5件でした。

平成27年度羽生市一般会計歳入歳出決算の審査では、防犯費において「防犯灯4,898基をLED化し、経費の削減ができたとのことであるが、どの程度削減できたのか。また、削減できた経費で、各自治会から要望のある防犯灯の増設はできなかったのか伺いたい。」との質疑に対して「10年間で約2,960万円の経費が削減できる見込みである。その結果、削減できた経費を活用し、防犯灯の新設は、これまで毎年、各自治会1基のみであったものが2基設置可能となった。」との答弁がありました。



審査結果を報告する永沼委員長

算第3号の審査では、商工費に「創業支援事業補助金を活用して、どのような形態の事業が新たに創業する予定なのか。また、補助金を交付するに当たり創業に必要資格等があるのか伺いたい。」との質疑に対して「新たに創業する事業の形態については、飲食店・不動産業・空調設備業などが予定されている。また、創業しようとする事業によっては、補助金交付にあたり、必要な資格として、不動産業の場合は宅地建物取引資格、空調設備業の場合には管工事施工管理技士など

都市民生 委員会

委員会上に付託された案件は、議案12件及び請願1件でした。

平成27年度羽生市一般会計歳入歳出決算の審査では、扶助費において「生活保護費が前年度よりも増えているが、今後とも増え続けていくのか、伺いたい。また、以前の比較・受給者割合について併せて伺いたい。」との質疑に対して、「世の中の経済状況が良くないことも影響し、生活保護受給者は総体的に増える状況にある。また、比較・受給者割合については、平成元年度では、101世帯、0.3%であったのに対して、平成26年度では365世帯、0.8%に増加している。」との答弁がありました。

次に、平成28年度羽生市一般会計補正予算の審査で



審査結果を報告する中島委員長

は、学童保育施設費において、「川俣学童保育室の開設に係る整備費用とのことだが、定員と入所予定児童数について、伺いたい。」との質疑に対して、「定員は30名で、入所予定児童数は、現在、川俣小学校から羽生北学童保育室に通っている児童が10名、来年度に5名程度の入所を見込み、合計15名を予定している。」との答弁がありました。

また、若者も高齢者も安心できる年金制度の実現を求める請願は、現在の日本の経済状況を見たときに、請願の要求事項を実現するための財源確保が難しいことから、趣旨採択すべきものと決しました。

9月定例市議会傍聴者数	
9月1日	1人
8日	0人
9日	6人
12日	32人
13日	11人
28日	5人
計	55人でした。

常任委員会傍聴者数	
9月14日	0人
15日	0人
16日	0人
20日	5人
計	5人でした。

《議会だより編集委員会》	
委員長	松本敏夫
副委員長	中島直樹
委員	丑久保恒行
委員	永沼正人
委員	島村勉

ご意見などを
編集委員会まで

☎048(561)1121
(内線)513